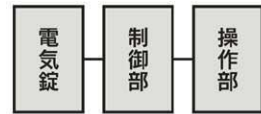


電気錠をお選びになる前に

1

電気錠システムの基本構成

電気錠(電気ストライク)を作動させるためには電気錠だけでなく、必ず電気錠・制御部・操作部の3点が必要です。(制御部と操作部が一緒になったタイプもあります。)
電気錠システムをお選びになる場合は上記3点をご発注いただきますようお願い申し上げます。
また、電気錠を正しく作動させるためには、建具工事だけでなく電気工事が必要です。配管・配線はもちろんですが、結線や機器の取付等、最初から施工区分を明確にしてください。



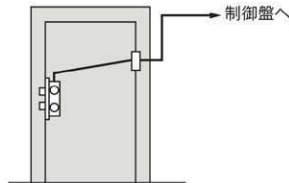
電気錠をお選びになる前に

2

扉の種類による電気錠の選び方

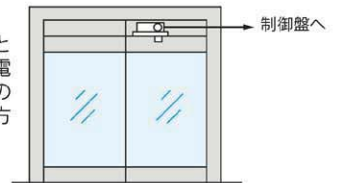
1.フラッシュ扉の場合

ほとんどすべてのタイプの電気錠を取付けることができます。



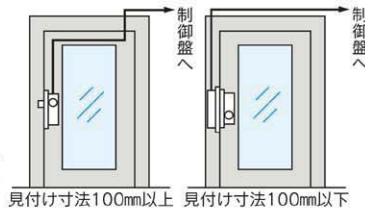
3.強化ガラス扉の場合

扉自身に電気錠を取付けることができないので、無目に本締電気錠を下向きに取付けて、扉の上框にデッドボルトを落とす方法になります。



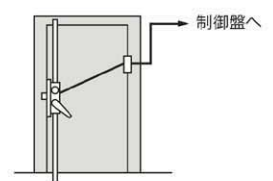
2.框扉の場合

框の見付け寸法が100mm程度以上の場合(有効内寸80mm以上ある時)は本締電気錠AL3M型が使用できます。それ以外の場合は枠側に電気ストライクを取付け、扉に自動施錠タイプの錠(AD、HK等)を使用するのが一般的です。



4.その他の場合

重量扉やエアタイト入りの防音扉等にはグレモン電気錠をご使用ください。また、木製扉をご使用の場合は扉メーカーと良くご相談ください。



3

お願い

- どんなに良い錠前でも、その取り付けられる扉、あるいは扉の支持金具が良くない場合は、その機能が十分に果たせません。扉及び扉支持金具も良いものをお選びくださるようお願いいたします。
- 電気錠は、通常の錠前に、電気で施解錠する機能を付加したものです。取付に際しては、通常の錠前と同様のご注意をお願いいたします。
 - ・電氣的に動作しない場合には、まず錠前として正しい取付がなされているかどうかをチェックいただき、その後電気錠と制御盤間の結線が正しくなされているかどうかをご確認ください。
- 扉内の配管や通線経路に通線用のシリコン潤滑剤は使用しないでください。発生するシリコンガスにより、錠ケース内部のスイッチが接点不具合を起こす恐れがあります。

4

電気錠の屋外使用についてご注意いただきたいこと

弊社の電気錠を屋外で使用する際には、以下の事柄にご注意ください。

- 1) 電気錠は特殊なものを除き、風雨により一時的に扉面に雨水がかかる程度での不具合発生は、通常の場合はありません。ただし、錠本体は水の浸入を排除する構造になっていないので、次の点については、施工上の配慮、および運用上の配慮をお願いいたします。
 - 風雨時、常に雨水が扉面を伝うような状態にはならぬよう、扉上部の雨よけ(ひさし)は必ず設けてください。
 - 出来るだけ、開扉時にも扉上部には雨がかからぬような設置をお願いします。扉上部が開いているために、開扉時に雨が直接扉内部に侵入するような扉は使用しないでください。
 - 通線の結線部は防水に配慮し、扉下部・枠下部には水抜き穴を設け、万が一にも錠本体や結線部が、水没することはないようにしてください。
- 2) 電気錠を屋外に面した扉で使用する場合は、その実効耐用年数が短くなることをご理解ください。

5

停電補償用バッテリーについて

動作機器に組み込まれた停電補償用バッテリーの寿命について

- 1) 5年を目途に交換してください。
 - この年数は一般的な使用環境の元で期待できるバッテリーの寿命です。製品保証期間(2年間)とは異なります。
 - 常に30℃を越すような高温の場所へ設置する場合や、放電が頻繁に発生するような使用状況の場合はバッテリー寿命は短くなりますので2~3年を目途に交換してください。
- 2) 乾電池等の市販品の保存寿命は、各メーカー指定の期間です。

6

JEM-A端子のご使用上の注意

- 1) 当JEM-A端子は、電気錠の動作特質および防犯上の理由により、基準に準拠しない部分があります。運用上ご注意ください。または制御器側で設定緩和いただく等のご対応をお願いいたします。
 - 制御入力後のモニタ信号の返信は1~5秒後です。錠種・扉の具合により大きく変動いたします。
 - JEM-A規格上では「制御後350mS以下での応答をモニタに返す」に対して、電気錠制御器のJEM-A端子のモニタ信号は、正常動作時であっても約1秒を超えての返信となる場合があります。扉の開動作を遅くしている場合にはさらに数秒を要することもあります。モーター錠(AL3M、AFF等)との接続の場合、その動作が1秒程度かかることと、防犯目的の機器のために先行して、疑似信号を返す処置はなされないことにより、正常動作時でも規格には準拠しないモニタ信号になっています。
 - モニタ信号の出力タイミング以外の仕様は、規格に準拠しています。